



## 「今、私がやれることは何だろう」

～「SOE活動と若者の生の体験スピーチが、184人の受講生の心を揺り動かした」～

階段教室でのSOEの講義



### 日本女子大学人間社会学部 生涯学習概論で ゲストティーチャー講演

私たちは、表題のテーマで、NPO法人センスオブアースの副理事長である田中雅文教授の授業に、ゲストティーチャーとして、7月5日午後に90分の講演を行いました。



田中雅文教授がSOEを紹介

講演は、理事長・寺田茂のほか、幼児プログラム「いもむしのたからぶくろ」の紙芝居の読み聞かせをはさみ、学生一長南安香・井上美聡・浅香詠美・高橋りな、その他社会人の若手スタッフ5人が、NPOの体験と学びを生で、堂々と語りました。



幼児向け自然遊びの紙芝居とスタッフ体験は、同年代の学生の心をつかみ、環境教育への関心と、社会貢献を「やってみる」ことへ、強い刺激を受け、社会活動に参加したい学生が多数出てきた様子が学生のミニレポートで分かりました。



2004年、なぜ、NPOを設立することになったか、学校教育を取り巻くいじめ・不登校・学級崩壊などの子どもたちの心の荒れと、自然の破壊は「命の破壊」という点でつながっていることを語り、命を育てるビオトープ作りを通して、生きた教材で、命を大切にする道を探ったこと、NPOを立ち上げ、その後、学校を越えて、各地に環境教育プログラムを普及する活動や幼児を対象とした自然遊びの童話づくりを紹介しました。



学生たちが、生き生きと紙芝居を読んだので、小さなお話が学生の心をつかえたようでした。「絵を描くことならできる」「このNPOの活動に参加したい。」「社会活動に積極的に参加していきたい。」「体験を通して学ぶことをしたい。」など、前向きで、行動的な思いがたくさんつづられていました。



## 《学生のミニレポートより》

- やらないのは思っていないのと同じ。活動している同年代の人がたくさんいる。いずれ近いうちに私も活動する若者の一員になろうと思う。
- NPOが存続するためには学び続けなければならないというメッセージ。プログラムに参加した人だけでなく、提供する側の人も、学びになっているのだ。自分に参加できそうな活動をさがして参加したい。



- 紙芝居に探検カードをとりいれて、子どもたちが主体的に取り組めるよう工夫されている。
- 私も何か自主的にやりたいと言う意欲がわきます。見つかったら、体験を通して学ぶことをしたい。
- 自分自身が学び続けなければ人に発信もできないし伝わらないと言われたことが心に残った。今、自分に何ができるか考えて行動していきたい。
- 生涯学習にたずさわるNPOは最も生涯学習に近い所にあるのではないか。ここで学ぶだけでなく、それを自分でどう変えていくのかということが大切となる部分ではないか。
- 社会問題への興味から、子どもと接することへの興味が持てるかもしれないので、学芸大学の長南さんと同じように、知識を深められるよう、何か、動いてみようと思った。
- 大学のサークルの中には、子どもたちと遊ぶことを目的としたものもあるので、団体として手伝えることができるとよいと感じた。



- 子どもたちに読み聞かせをして終わるのでなく、中から外へ活動の場を広げることはおもしろい。私は話を聞いているだけだったが、一緒に活動してみたいな、子どもたちと触れ合いながら学習してみたいなととてもワクワクした。私は絵を描くことが好きなので、紙芝居の絵を描くお手伝いはできると思った。

- 私たちが今するべきことは学び、考えることだけで終わっては意味がないという言葉がとても心に響いたので、このNPOの活動に非常に参加したいと思う。
- やってみると言うことで、気づきや自己の成長へとつながり、机上では学べないことがたくさんあり、とてもやってみたいと思った。私は幼稚園の教諭を目指しているので、社会活動に積極的に参加していきたいと思った。
- 正直、大学生って何ができる？ と思っていましたが、今日話を聞き終わったときには「大学生だからこそ、今だからこそできることがある」に変わっていました。
- 活動している写真も見せてもらって、同い年ぐらいの方々が小さな子どもたちと環境問題に対する活動を行っていて、私も何か動き出したいと思った。
- 私は自然が好きで、それに関わることがしたいと気付いた。すごい発見。子どもたちの感性に触れて自然の素晴らしさに気付くのもすごくいいな。急にこれからが楽しみになった。



# 「鳥の声・花・くもの巣・あり・ダンゴムシたくさん見つけたよ」

紅梅保育園 4・5歳児 48名  
6/20 赤塚公園通称ハーメルン公園



梅雨の合間を縫って、赤塚公園の東のはずれにある通称「ハーメルン公園」に出かけました。前回は雨で延期になったので、今日こそという思いが通じたのか、雨はどこかへ。



はじめのキロリのオニゴッコの説明を学生スタッフの長南さんが話すと、この通り、しっかり、前を向いて、見事な聞き方ができました。



「いもむしのたからぶくろ」の紙芝居を聞いている子どもたちの真剣な目、後ろ姿から想像してください！素晴らしい集中でした。

見つけた自然のたからもの「鳥の声!」「木の実」「ありの巣」「チョウ!」「はっぱ!」「花!」「鳥の声すてき!」「木の実、チョウ!」「木の実、全部!」「チョウ、葉っぱ、だんご虫!」  
西田美佐子園長先生「今日は楽しかったですね。色々考え、見たと思います。また、公園へ行って楽しみましょうね。」



# 「生きもののひろばオニゴッコ」生きもののすみか

5/28 栄町保育園園庭は生きもの王国



栄町保育園は、お庭が生きものの楽園。ちょう、トンボ、バッタ、咲き乱れる野草の花々。民間の園長さんたちも「研修で参加」。園庭を1周して

よい許可をもらって、ウキウキワクワクしながら、「モンシロチョウいっぱい・テントウムシ・その幼虫・ハチ・アブ・くも 葉の下・ありたくさん・アブラムシ。ミズ土の中、葉の下・バッタ・黄色い花いい匂い!・茶色のヤモリ見つけた」

片桐牧子園長先生「いつもいる保育園、よく見たら、クモ・テントウムシ、先生もワクワクした。今年は何がいるかドキドキした。ヤモリ・ミズがいてうれしかった!!」



# 上板橋小 第2回 3年生と5組さんのみそづくり交流会

昨年につき、3年生と5組さんの、上板小産味噌づくりが、7月2日に行われました。



「梅雨の時期でも大丈夫なの？」と驚く人もいましたが、大丈夫。しっかり、塩をふり、アルコールでふたをすれば、カビ止めに。

昨年作ったみそも大成功。ということで、一緒にグループになり、作業もすべて、全員で行いました。リーダーは松山先生、福本先生、5組さんの先生方。①大豆を4時間煮て(センスオブアースが、朝から家庭科室で煮ました。)②大豆を厚手のビニール袋に入れて、お足で交代で踏んで④塩とこうじを混ぜ入れて⑤団

子にまるめて⑥壺に投げ入れて空気を抜いて⑦上から押して出来上がり。半年～8カ月でみその出来上がり。このお味がそれはそれはおいしいと子どもたちやご家庭でも評判です。市販の味噌より、麴を多く入れて、その上、塩分は少なめにしています。



こうじ菌が活発なため、どんどん熟成が進み、色は白→黄色→黄土色→茶色→こげ茶色へと変化していくのですが、黄土色あたりで十分食べられます。

生きている発酵食品なので、食べると体の中の異物を押し流してくれます。放射性物質の排出に、効果があることが長崎の被爆者の医者から伝えられてきました。動物実験でも証明されたということです。



## 子どもたちの声

「みそ汁がおいしかった。」「踏んで作るのが楽しかった。」「しお・麴を混ぜるのが楽しかった。」「家のみそ汁よりおいしかった。」「大豆の煮た匂いはトウモロコシのような匂いだった。」

昨年仕込んだみそを使ってみそ汁をいただく

**SOE学生スタッフ 梶原舞さん**「みそづくりは初めてだったのでとても楽しかったです。今日は子どもたちとあまり話せなかったので、次回参加する時はもう少し積極的に子どもたちと話したいです。」

発行

特定非営利活動法人 センスオブアース・市民による自然共生パンゲア

東京事務所 東京都板橋区前野町4-8-6 (〒174-0063) phone: 03-3960-6052 fax: 03-3960-6052  
e-mail: info@npo-soe.jp url: npo-soe.jp